

FOR THE WORLD HERITAGE

国立西洋美術館を 世界遺産に

人類共通の宝として未来に引き継ごう



写真：新 良太



台東区における登録推進活動

台東区では、世界遺産登録を目指す国立西洋美術館の価値や建築家ル・コルビュジエの偉業などを多くの方々に理解してもらうために、町会や商店街、観光団体をはじめ、地域の皆様のご協力をいただきながら、官民連携によるPR活動に取り組んでいます。

台東区における登録推進団体

官民
による
推進活動

区：台東区国立西洋美術館本館世界遺産登録推進会議（H20年3月発足）
議会：台東区議会国立西洋美術館本館世界遺産登録推進議員連盟（H20年9月発足）
地域：国立西洋美術館世界遺産登録上野地区推進委員会（H20年6月発足）



上野夏まつりパレード参加（2009.7.18）



世界遺産登録推進活動報告会（2010.2.5）



区役所1F情報コーナー（2009.10.5）



国立西洋美術館施設見学会（2010.3.1）



国立西洋美術館への アクセスMAP

- JR 上野駅下車(公園口出口) → 徒歩1分
- 京成電鉄 京成上野駅下車 → 徒歩7分
- 東京メトロ 銀座線、日比谷線 上野駅下車 → 徒歩8分
- 東西めぐりん20番停留所 上野公園（東京文化会館前） → 徒歩1分



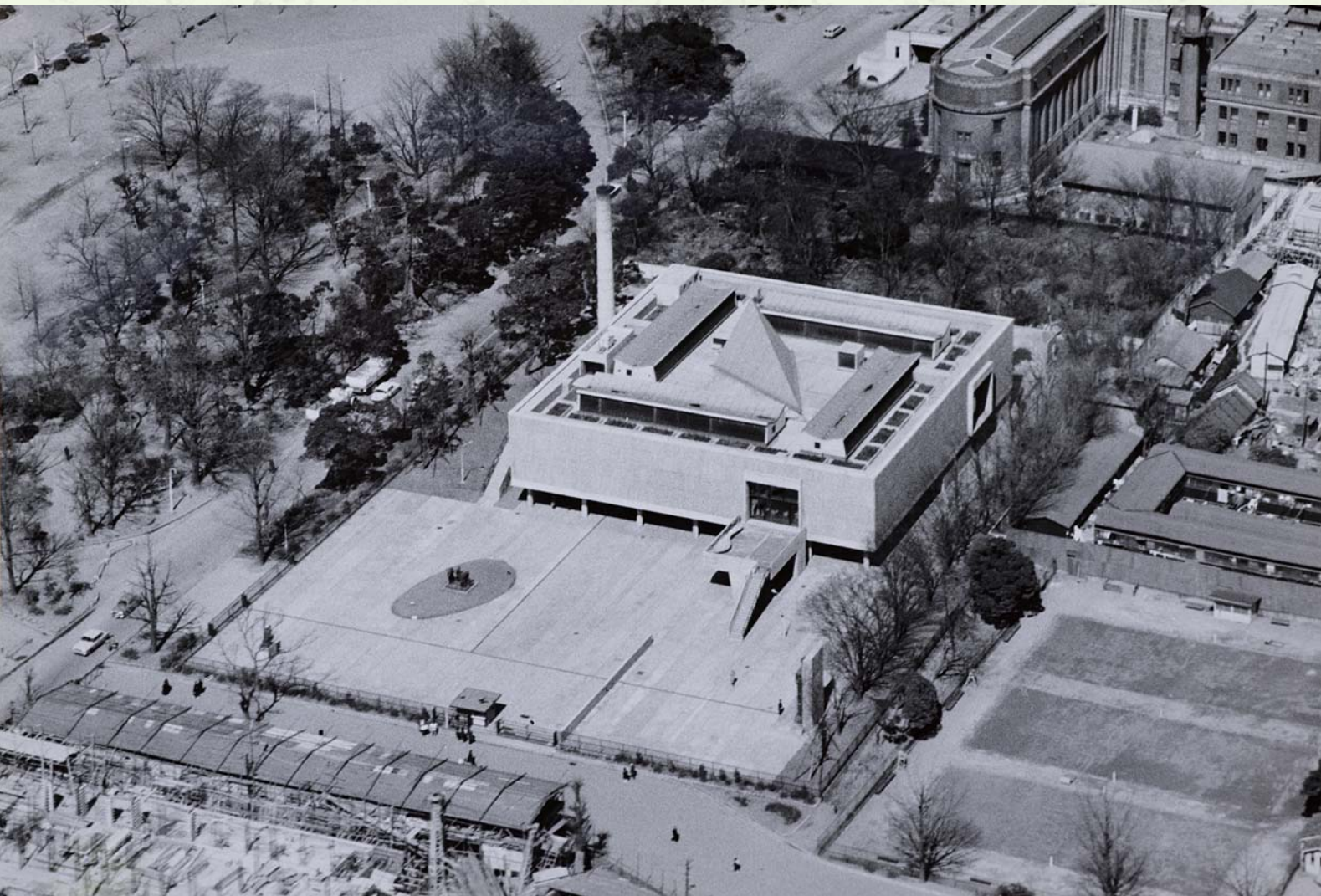
国立西洋美術館世界遺産登録推進パンナー

編集・発行 平成22年3月

台東区世界遺産登録推進室
〒110-8615 台東区東上野4-5-6
TEL 03 (5246) 1111 FAX 03 (5246) 1339
<http://www.city.taito.tokyo.jp/sekaiisan/>

〔写真提供〕
国立西洋美術館、朝日新聞社、新 良太
〔編集協力〕
国立西洋美術館、大成建設ギャラリー・タイセイ

芸術の森、上野公園に 国立西洋美術館 誕生！



完成後の建物全景（1960年頃）

そして 今、世界遺産へ！

■美術館が建設されるまで

1920年頃、川崎造船所社長の松方幸次郎は、日本に西洋美術を紹介しようと考え、ヨーロッパで絵画等の美術作品を収集しましたが、第二次世界大戦後、フランスで収集した数多くの美術品（松方コレクション）は、敵国財産としてフランス政府の管理下に置かれることになりました。

昭和28（1953）年、日仏文化協定に基づき松方コレクションは日本へ寄贈返還されることが決まりましたが、フランス政府は、返還条件として、フランス美術を展示するための新美術館の設置を要望しました。この条件を満たすために建設されたのが、国立西洋美術館です。

新しい美術館の建設には、世界的な建築家ル・コルブジエが設計者として指名され、昭和30（1955）年に来日し、建設予定地等を視察しました。ル・コルブジエが提出した基本設計を補足するため、細部にわたる実施設計はル・コルブジエに師事した前川國男、坂倉準三、吉阪隆正の3人の弟子が協力して行ないました。

昭和33（1958）年3月に建設着工した美術館は、昭和34（1959）年3月に竣工し、6月10日に開館しました。現在は松方コレクションをはじめとする美術作品と同様に、美術館の建物自体が貴重な文化財となっています。



国立西洋美術館の敷地を視察するル・コルブジエ(1955.11.3)

提供：朝日新聞社

■なぜ、上野公園内に 建設されたのか？

美術館の設置場所の選定については、昭和28（1953）年、仮称「フランス美術館」設置準備協議会が設けられ、幾つかの案が出され、検討されました。例えば、東京国立博物館の表慶館を一時使用する案、国立近代美術館の隣接地に増築する案、大倉集古館を利用する案などが出されました。

昭和29（1954）年2月、「ルーブル美術展」準備のために来日したルーブル美術館のジョルジュ・サール館長は、美術館は「新設であること、場所は東京で上野であること」を希望しました。

このサール館長の発言が契機となり、昭和29（1954）年5月、上野公園内の凌雲院跡地に建設することが閣議決定されたのです。



開館式の内覧会

ル・コルビュジェが設計した国立西洋美術館

国立西洋美術館(本館)・建物としての価値

◎日仏文化交流の起点となった歴史的な建造物

…「松方コレクション」という美術作品の寄贈返還を通じて、戦後の日本とフランスの国交回復、関係改善の象徴となった歴史的建造物です。

◎日本で唯一のル・コルビュジェ作品

…建築、都市計画に関するル・コルビュジェの作品は、世界各地に残されており、約70件が現存しています。国立西洋美術館(本館)は、彼が日本で設計した唯一の建造物です。ピロティー、スロープ、自然光を利用した照明計画など、ル・コルビュジェの建築的な特徴がとても良く表現されている作品であり、日本の戦後建築に極めて大きな影響を与えました。

◎「無限に成長する美術館」の構想を実現した美術館

…ル・コルビュジェが長年追求した「無限に成長する美術館」のアイデアを実現した美術館は、世界に3つあり、その一つが上野の国立西洋美術館です。その他はインドの「サンスカル・ケンドラ美術館」(1957年)と「チャンディガール美術館」(1965年)です。国立西洋美術館は、その中で最も完成度の高い美術館として評価されています。

ル・コルビュジェの考えた「無限に成長する美術館」

ル・コルビュジェは、1929年、「ムダネウム計画」の「世界美術館」において美術館建築の構想を示しました。その後、このアイデアが「無限に成長する美術館」構想の原型になるものです。

ル・コルビュジェが考えた「無限に成長する美術館」とは、展示空間が渦巻きのように螺旋(らせん)を描きながら延びているので、美術作品が増えても必要に応じて外側へ増築して展示スペースを確保できるというもので、美術館として無限に拡大していくことを可能としています。国立西洋美術館(本館)は、ピロティーとなっている1階の正面入口から建物の中心となるメインホール(「19世紀ホール」)に入ると、スロープで、2階の展示スペースへ昇り、回遊することができます。



19世紀ホール(右上) 本館展示室(左下) 屋上(右下)



ル・コルビュジェ (Le Corbusier 1887~1965)

- ・20世紀を代表する近代建築の巨匠
- ・本名:シャルル・エドゥアール・ジャンヌレ (Charles Edouard Jeanneret)
- ・「ル・コルビュジェ」という名前は、雑誌「エスプリ・ヌーヴォー」上で使用したペンネーム

◇1887年10月6日、スイスのラ・ショー=ド=フォンという町に生まれる。父親の家業(時計製造)を継ぐため、美術学校で彫刻や彫金を学びました。在学中、建築を学ぶことを勧められ、建築家としての人生の一步を踏み出しました。その後、活動の拠点をフランスのパリに移しました。ル・コルビュジェのアトリエには世界中から建築を志す多くの者が訪れました。

【ル・コルビュジェの功績】

ル・コルビュジェは、「ドミノシステム」の考案や、「新しい建築のための5つの要点」、「モデュロール」など、新たなアイデアを提案しました。それらは20世紀以降の建築・デザインに多大な影響を与えました。また、建築界のリーダーの一人として活動しただけでなく、絵画、版画、彫刻などの芸術作品の制作をはじめ、インテリアのデザインや執筆活動にも取り組み、数多くの作品を残しました。

【代表的な建築作品・都市計画】

サヴォワ邸、マルセイユのユニテ・ダビタシオン、ロンジャンの礼拝堂、チャンディガールの都市計画など

◇1965年8月27日、フランスのカップ・マルタンで海水浴中に死去(享年78歳)

ル・コルビュジェと初期全体計画案模型

国立西洋美術館(本館)世界遺産登録に向けて

世界遺産について

ル・コルビュジェの建築作品を世界遺産に

フランス政府とル・コルビュジェ財団が中心となり、建築家ル・コルビュジェが設計した代表的な建築作品を一括して国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)の世界遺産リストに登録することが計画されました。

フランス政府は、ル・コルビュジェが日本で唯一設計した国立西洋美術館(本館)を構成資産の一つとして推薦するため、日本政府に対して協力要請を行いました。平成19(2007)年9月14日、日本政府は、国立西洋美術館(本館)を世界文化遺産の候補として、ユネスコの世界遺産暫定リストに記載しました。そして同年12月21日、国の重要文化財(建造物)に指定しました。



写真：新 良太



国立西洋美術館(現在)(上)
サヴォワ邸(左下) ロンシャンの礼拝堂(右下)

世界6カ国による共同推薦

平成20(2008)年2月1日、国立西洋美術館(本館)を含む「ル・コルビュジェの建築と都市計画」が世界遺産に推薦されました。

この度の推薦は、世界6カ国(※)に点在するル・コルビュジェの建築作品をフランス政府が取りまとめ、一括して世界遺産リストへの登録を目指すものです。

世界遺産登録を目指しているル・コルビュジェ作品には、日本の国立西洋美術館のほかに、ル・コルビュジェの代表作品と称されているフランスの「サヴォワ邸」や「ロンシャンの礼拝堂」などが含まれています。

※世界6カ国：フランス、スイス、ベルギー、ドイツ、アルゼンチン、日本

これまでの経緯

平成19年 9月	世界遺産暫定リストに登録、推薦書(暫定版)の提出
12月	国立西洋美術館(本館)・重要文化財(建造物)指定
平成20年 1月	日本政府「ル・コルビュジェの建築と都市計画」の世界遺産推薦を決定
2月	フランス政府が推薦書を取りまとめ、ユネスコ世界遺産センターへ提出
10月	専門機関・国際記念物遺跡会議(ICOMOS)による現地調査(10/23・24)
平成21年 5月	国際記念物遺跡会議(ICOMOS)による勧告(=「記載延期」)
6月	第33回世界遺産委員会(スペイン・セビリア)
6月27日	審議 ⇒「情報照会(※)」決議

※「情報照会」決議：世界遺産委員会の決議には、「登録(記載)」、「情報照会」、「記載延期」、「不記載」の4つの区分がある。今回の「情報照会」は、「登録(記載)」に次ぐ2番目の区分で、世界遺産として登録の価値はあるが、登録には追加情報を提出し、再度、世界遺産委員会で審議を受ける必要がある。

世界遺産とは

地球上には、人類が大切に守り、引き継いできたすばらしい自然や文化があります。これを世界のすべての人々が共有し、人類共通の宝物として未来へ引き継いでいくために、1972年のユネスコ総会で「世界の文化遺産及び自然資産の保護に関する条約」(世界遺産条約)が採択されました。この条約に基づいて登録された文化財や自然環境が「世界遺産」です。

●条約締約国：186カ国(2009年4月現在)

※1：ユネスコ：国際連合教育科学文化機関(UNESCO)

※2：ICOMOS：国際記念物遺跡会議(イコモス)

※3：IUCN：国際自然保護連合

世界遺産の分類

世界遺産は、次の3つの種類に分けられます。

()内の数字は2009年7月現在の登録件数

文化遺産 (689件)	自然遺産 (176件)	複合遺産 (25件)
顕著な普遍的価値をもつ記念物、建造物、遺跡、文化的景観	顕著な普遍的価値をもつ地質・地形、生物、自然	文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えている遺産
ヌビア遺跡群、アテネのアクロポリス、万里の長城、姫路城など	イグアス国立公園、ダイナソール州立公園、屋久島など	マチュ・ピチュ、ギョレメ国立公園とカッパドキアの岩石群、泰山など

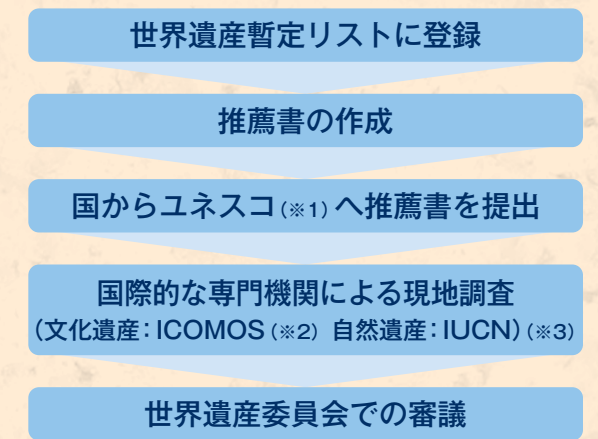
世界文化遺産に登録された主な「20世紀建築」

世界文化遺産には、古代の遺跡やキリスト教関連遺産をはじめ、歴史的な建物や都市が多く登録されていますが、近年、20世紀以降に造られた建築物等(20世紀建築)が目立って登録されています。

20世紀建築には、アントニオ・ガウディのような有名な建築家による作品のほか、産業的な遺産、大学や都市の設計など、様々な種類があります。

遺産名称	所在国	登録年
1 ブラジリア	ブラジル	1987年
2 ヴァイマルとデッサウのパウハウスとその関連遺産群	ドイツ	1996年
3 建築家ヴィクトール・オルタによる主な邸宅群(ブリュッセル)	ベルギー	2000年
4 リートフェルト設計のシュレーテル邸	オランダ	2000年
5 ブルノのツゲンドハット邸	チェコ	2001年
6 テルーアビープのホワイトシティー近代化運動	イスラエル	2003年
7 ル・アーヴル、オーギュスト・ペレによる再建都市	フランス	2005年
8 シドニーオペラハウス	オーストラリア	2007年
9 メキシコ国立自治大学の中央大学都市キャンパス	メキシコ	2007年
10 ベルリンの近代集合住宅群	ドイツ	2008年

世界遺産登録までの流れ



世界遺産登録決定